

主 業 事 業



おやまが、新たな一歩を踏み出す年。
「金太郎のような元気なまち」を目指すために、総合計画4つの柱に沿った平成24年度の主要事業を紹介します。

① 便利で快適なまち 〔環境・都市基盤〕

- バイオマス活用推進協議会補助 20万5千円
- 電気自動車急速充電設備設置事業 1千100万円
道の駅「ふじおやま」と道の駅「すばしり」に急速充電設備を設置。
- 地区計画策定事業 401万4千円
菅沼地域、東富士リサーチパーク、わさび平の地区計画策定の調査・検討。
- 金太郎計画2020（仮称）策定事業 50万円
町内5地区の将来像を描いた計画策定の調査・検討。
- 都市計画マスタープラン策定事業 367万2千円
まちづくり町民会議（仮称）を設置、素案の作成、平成24年度で実施。
- 新東名高速道路小山PA（仮称）及びスマートインターチェンジ化調査事業 300万円
- 定稿S.A.スマートチェンジ検討調査事業 100万円
足柄S.A.のスマートチェンジ化のために周辺地域の土地利用などを検討。
- 湯船原開発計画可能性調査事業 100万円
- 定稿駅舎及び周辺整備検討事業 100万円



▲同伐材を使ったペレットストーブ（産業祭）

- 新東名側道整備事業 1億4100万円
- 定住促進事業助成（仮称） 2000万円
町外移住者の増加、町外への流出を抑制するための助成金を交付。

② 安心・安全なまち 〔健康・福祉・危機管理〕

- きたこう保育園改築事業 450万4千800円
北郷幼稚園に併設。平成24年度は造成工事を実施。
- 出産祝金支給 550万円
第2子以降の出産に対して、お祝い金を支給。
- スコリア土壌森林内緊急整備事業 2100万円
森林のスコリア土壌流出を軽減するため、土壌の改良や木柵の設置などを整備。
- 山地強靱総合対策会議 500万円
強い森林づくりを目指し、住

③ いきいきとしたまち 〔教育・文化・産業〕

- 須走小学校体育館等建設事業 3220万円
体育館周辺の外構工事、プール上屋解体工事など。
- 小中学校図書室支援員配置 428万5千円
図書室の充実を図るため、現在2人の配置を4人に増員。
- 幼稚園・保育園受生化事業 330万3千円
駿河小山幼稚園、すがぬま保育園の園庭を芝生化。
- 小学校低学年の書道科授業の導入 95万円
- 学校給食地産地消事業助成 40万円
学校給食への町内産のコシヒカリや農産物活用への助成。
- 観光振興条例の策定 52万4千円
観光振興計画策定にあたり、住民や観光関係者と共に観光振興条例を策定。
- 自転車まちづくり事業 200万円
道の駅を拠点にしたサイクリングコースを開発。

④ 計画推進のために 〔広域・行財政・協働〕

- 金時公園周辺整備検討事業 100万円
金時公園とその周辺地域の活用を検討。
- 富士山踏走口5合目電化設計業務 100万円
富士山須走口五合目の電化を進めるための設計。
- 町制施行100周年記念事業 2000万円
1年を通して町を元気に活気づけるイベントを開催。
- 総合相談窓口の設置 140万円
日常生活の悩み、町政に対する疑問、要望などを相談する窓口を一元化。
- 住宅建築相談窓口の設置 200万円
住宅の新築・増改築など、住宅関連相談窓口の一元化。
- NPO支援センターの設置 200万円
市民活動団体に対する情報提供、団体育成、組織の支援など。



▲6年生が「緑の少年団」として植樹（北郷小）

- 民、国、県などの関係者と協議・検討。
- デジタル防災行政無線機整備事業 2850万円
アナログ無線機からデジタル無線機に移行。平成24・25年度で実施。
- 消防第5分回車庫詰所建設事業 5685万円
車庫詰所の解体工事と建設工事
- 農業用施設災害復旧事業 6905万2千円
平成22年台風9号豪雨災害復旧の未着工事。
- 公共用土木施設災害復旧事業 7336万2千円
平成23年地震災害の未着工事。



▲小山町産の野菜でおいしい給食（明倫小）



▲富士スピードウェイで開催される自転車レース



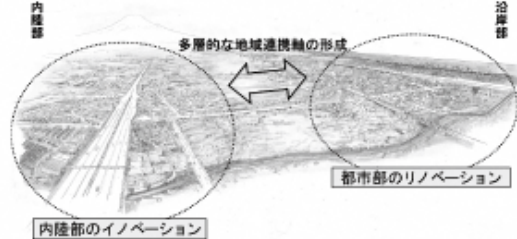
新東名小山PA周辺と湯船原地区が 地域活性化総合特区に指定

平成24年9月26日に静岡県知事が国に申請した「ふじのくに」防災減災・地域成長モデル総合特区(内陸のフロンティアを拓く取組)が2月15日、地域活性化総合特別区域に指定されました。平成32年に供用開始予定の新東名高速道路に設置する小山パーキングエリア(小山PA)周辺地区や、湯船原地区の開発推進に、大きな一歩を踏み出しました。

総合特別区域の指定

総合特別区域(総合特区)とは、地域限定で法的な規制を緩和し、また税制・金融・財政上の支援措置を総合的に実施するものです。今回指定された静岡県の「内陸のフロンティア構想」は、新東名を活用して、津波の影響を受けない内陸部に魅力ある先進地域を構築し、沿岸部を防災や減災に対応した地域とする構想です。今後、県では国の関係機関との協議を行い、規制緩和などの特例を活用した具体的な総合特区計画を作成します。この計画が国から認定された後、事業の推進へと移ります。

〈内陸のフロンティア構想の全体イメージ〉



小山町で展開する事業
静岡県全域を対象とする内陸のフロンティア構想には「内陸部のイノベーション(革新)」「都市部のイノベーション(再生)」「多層的な地域連携の形成」の、3つの戦略があります。

小山町では「富士山麓における地域産業の振興とバイオマス活用拠点の形成」として、内陸部のイノベーションモデルの創出を進めます。平成32年の新東名高速道路の供用開始を見込んだ「小山パーキングエリア・スマートインター」を活用した地域産業集積事業」と、広い土地開発が見込める湯船原地区での「木質バイオマス発電を中心とした産業拠点整備事業」を提案しています。人や物の流れが大きく変わる新東名高速道路の開通を契機に、地域産業の活性化や企業立地の推進を図り、また、山林の適正管理を行いながら、土砂災害に強いまちづくりを実現していきます。



▲ハイテクパーク富士小山がある湯船原地区

小山PA周辺地区

新東名高速道路の小山パーキングエリアは、大御神地区に設置予定で、スマートインターから棚頭の富士小山工業団地や富士スピードウェイ、富士霊園へのアクセスが良好となります。食品・自動車関連産業や観光レジャー関連施設を集積し、北郷地区の活性化を目指します。

湯船原地区

小山PAからも近く、広い土地があるため、工業団地などの開発が期待されます。地域の森林資源を活用する木質バイオマス発電を中心に、工業団地の造成を行い、企業立地による雇用の創出や、エネルギーの地産地消を目指します。

内陸のフロンティア構想 対象区域



区分	地域数	地域
内陸部のイノベーションモデルの創出	7	①三島市、田南町、長泉町、②富士市、③小山町、④静岡市、⑤藤枝市、⑥袋井市(北部)、⑦森町
都市部のリノベーションモデルの創出	3	⑧吉田町、⑨袋井市(南部)、⑩駿田市
多層的な連携の形成モデルの創出	1	⑪県内全域

富士山麓における地域産業の振興とバイオマス活用拠点の形成



小山PA周辺地区
小山パーキングエリア・スマートインターを活用した地域産業集積事業

湯船原地区
木質バイオマス発電を中心とした産業拠点整備事業

今後のスケジュールなど
今後、指定された構想を具体化した計画の「認定」に向けて、「国と地方の協議会」が開催されます。また、県の地域協議会や町が計画する、特区推進協議会などで、計画推進の話し合いが行われます。

町は、新東名高速道路の供用開始という大事業を千載一遇のチャンスととらえ、内陸のフロンティア構想を含めた総合的な地域活性化事業を展開していきます。

企画財政課 ☎76-6133

主 業 事 業



町の新たな100年のスタート。
「金太郎のような元気なまち」を実現するための、総合計画4つの柱に沿った平成25年度の主な事業を紹介します。

① 便利で快適なまち

〔環境・都市基盤〕

- 富士山世界文化遺産登録記念事業 50万円
- 環境基本計画策定事業 300万円
- 地域整備計画策定事業 500万円
- 菅沼地域、足柄駅舎及び周辺の地域整備計画策定の調査・検討
- 国土利用計画策定事業 250万円
- 町内における国土利用の方向を示す計画の策定
- 都市計画マスタープラン策定事業 499万8千円
まちづくり町民会議(仮称)

を設置、素案の作成、平成25、26年度で実施。

- 新東名高速道路小山PA(仮称)スマートインターチェンジ設置調査事業 300万円
- 湯船原開発計画可能性調査事業 525万円
- 定額S.A.Sスマートインターチェンジ検討調査事業 400万円
- 足柄S.A.Sスマートインターチェンジ化及び周辺地域の土地利用などを検討
- 大御神レース村地区計画策定事業 300万円
- 市街化調整区域の大御神地区におけるレース村地区計画の研究・検討
- 橋梁長寿命化事業 6000万円

橋梁長寿命化修繕計画に基づき測量設計、修繕工事。

- 新東名側道整備事業 3億2826万4千円
- 定住促進事業助成金 1500万円
- 都市計画道路再検証事業 300万円
- 大胡田用沢緑用地調査業務 600万円
- 光ファイバ網整備事業補助金 8701万7千円
- 用沢局管内の光ファイバ網整備に対する補助金
- アジサイの里づくり交付金 30万円
- 花と緑のまちづくり推進のため、あじさい苗の植栽費用を交付

② 安心・安全なまち

〔健康・福祉・危機管理〕

- きたごう保育園建設事業 4億7111万8千円
- 北郷幼稚園に併設、平成25年度は園舎建築、外構工事を実施
- 出産祝金支給 550万円
- 第2子以降の出産に対して、お祝い金を支給
- 幼稚園・保育園芝生化事業 74万4千円
- いきと保育園の園庭を芝生化
- スコリア土壌森林内緊急整備事業 1703万5千円
- 山地強靱総合対策会議 250万円
- 災害対策本部体制強化整備事業 1400万円

③ いきいきとしたまち

〔教育・文化・産業〕

- 災害対策本部機能を生涯学習センターに移転。平成25年度は防災機器整備工事を実施
- デジタル行政無線機整備事業 1億7571万3千円
- 気象情報伝達システム整備事業 210万円
- 空き家解体撤去事業補助金 30万円
- 危険な状態にある空き家などの解体・撤去に要した工事費を補助
- 消防第7分団消防ポンプ自動車購入事業 2135万円
- 「北郷の森」森林環境整備計画策定事業 100万円
- 災害に強い森林づくり、保健休養林としての利活用などの計画策定



▶幼稚園の園庭芝生化の作業

- 富士山周辺整備事業 5134万5千円
- 富士山須走口5合目の電化を進めるための事業
- 誓いの丘整備事業 50万円
- 富士山の景勝地であり、撮影ポイントである誓いの丘の整備

④ 計画推進のために

〔広域・行財政・協働〕

- 各種教室委託事業 100万円
- 生涯学習教室の委託
- 小中学校整備事業 1200万円
- 須走中学校グラウンドのトイレ改修工事など
- 小中学校図書室支援員配置 425万5千円
- 図書室の充実を図るため4人の支援員を配置
- 小学校低学年の書道科授業 95万円
- 小山町地域産業立地事業費補助金 1000万円
- 地域産業立地事業を行う場合に、補助金を交付
- 富士山麓特用林産物開発事業 100万円
- 富士山麓で行う特用林産物の開発、生産試験
- 観光振興計画の策定 250万円
- 観光振興条例に基づき、観光振興計画を策定
- モータースポーツ推進事業交付金 100万円
- 富士スピードウェイと連携したモータースポーツの推進事業

- 総合相談窓口の設置 139万2千円
- 日常生活の悩み、町政に対する苦情、疑問、要望などの相談窓口を一元化

- 住宅建築相談窓口の設置 279万6千円
- 住宅の新築・増改築など、住宅関連相談窓口の一元化

- NPO支援室の設置 200万円
- 市民活動団体に対する情報提供、団体育成、組織の支援を引き続き実施

- ファシリテーション研修 163万円
- 町内5地域の将来像を描く計画策定のための人材育成

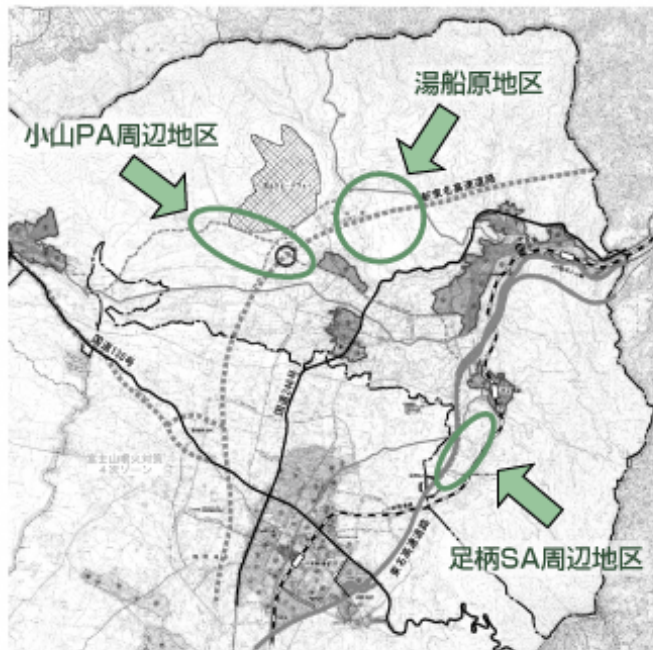


きたごう保育園は北郷幼稚園に併設され、生まれ変わります



意見を引き出すためのファシリテーション研修

小山町の未来を創る未来拠点課



小山町が進めている「内陸のフロンティアを拓く取組」について、平成26年度から湯船原地区において、静岡県企業局が工業用地の造成に着手します。

これに併せ、小山町では4月1日から「未来拠点課」を設置し、内陸のフロンティアの総合調整や土地利用事業を行うことで、今まで以上に元気ある小山町を目指し、企業立地を図り、雇用創出などに力を注いでいきます。

静岡県の動きは？

静岡県は、平成26年度から湯船原地区において工業用地の造成に着手します。

今までは企業の進出決定後に用地造成する「オーダーメイド方式」を採用していましたが、来年度からは、13年ぶりに、あらかじめ用地を準備した上で企業を誘致する「レディメイド」方式に改めます。

造成箇所は、湯船原地区内、ハイテクパーク富士小山の北側約30ヘクタールに、13区画の工業用地を整備し、平成30年度から分譲を開始する予定です。

町は、県に協力し、平成26年度に、湯船原工業立地詳細調査事業を行う予定です。

「未来拠点」とは？

町では「小山町の未来」と「3カ所の対象地区」をとり合わせ、「三来拠点」と称しています。

「富士のふもと」に、「三来拠点」3つの未来がはじまるまち「おやま」をキャッチフレーズに、対象となる地区を「小山PA周辺地区」「湯船原地区」「足柄SA周辺地区」の3カ所として進めています。

「木質バイオマス発電を中心とした産業拠点整備事業」

湯船原地区に地域の森林資源を活用する木質バイオマス発電所を中心とした工業団地を造成し、有事における電力供給の仕組みにより持続可能な分散自立型の地域づくりを実現します。

「小山パーキングエリア・スマートインターを活用した地域産業集積事業」

平成32年に新東名（仮称）小山PAが設置されることに合わせ、上下線に併設型のスマートICを設置し、周囲に地場産品販売所等を設置・集積し、地域産業の活性化を図ります。

問合せ
町長戦略課戦略班 ☎76-6133

「内陸のフロンティアを拓く取組」について

町の総合特区事業は、三来拠点の湯船原地区の「木質バイオマス発電を中心とした産業拠点整備事業」と、小山PA周辺地区の「小山パーキングエリア・スマートインターを活用した地域産業集積事業」です。

主な事業

「金太郎のような元気なまち」にするため、重点配分を行った4つの分野と、総合計画4つの柱に沿った平成26年度の主な事業を紹介します。

4つの重点配分

- 内陸のフロンティアを拓く取組として、(仮称)小山P.A周辺、湯船原地区、足柄S.A周辺の3地区の開発に向けた施策
- 富士山の世界遺産登録を受け、構成資産をはじめとした町の観光・環境施策
- 安心・安全なまちづくりとして、災害に強いまちづくりの施策
- 定住人口拡大及び少子高齢化に対する施策

① 便利で快適なまち

【環境・都市基盤】

- 富士山世界遺産まちづくり事業 300万円
富士山世界遺産登録を受けたまちづくり事業に対する支援。
- 再生可能エネルギー検討事業 100万円
バイオマス発電を始めとした、再生可能エネルギーの検討。
- 環境基本計画調査事業 100万円
環境基本計画に基づき、生物情報収集等の各種調査。
- 地域整備計画策定事業 700万円
明倫・北郷・足柄地域、足柄駅舎及び周辺地域整備計画策定の調査・検討。

- 国土利用計画策定事業 200万円
町内における国土利用の方向を示す計画の策定。
- 都市計画マスタープラン策定事業 395万3千円
まちづくり町民会議を設置、素案の作成。平成25・26年度実施。
- 三来拠点地区開発可能性調査事業 540万円
三来拠点地区(湯船原、足柄S.A周辺)の周辺地域開発計画としての調査・研究。
- 三来拠点地区区画整理関連調査事業 500万円
三来拠点地区(小山P.A周辺、足柄S.A周辺)の土地区画整理関連調査。

- 湯船原地区工業立地詳細調査事業 5000万円
静岡県企業局が工業用地として造成する湯船原地区の詳細調査。
- 東名高速道路足柄S.A周辺地区整備計画策定事業 300万円
足柄S.A周辺の地域整備計画策定の調査・検討。
- 新東名関連町道整備事業 3億9537万7千円
町道3975号線の橋梁及び道路路整備等。
- 橋梁長寿命化事業 6300万円
橋梁長寿命化修繕計画に基づく測量設計、修繕工事。
- 都市計画道路再検証事業 100万円
都市計画道路計画決定変更業務。



② 安心・安全なまち

【健康・福祉・危機管理】

- おやま健康マイレージ事業 146万2千円
健康づくりのポイント化と還元による、健康な社会環境の整備。
- 出産祝金支給 500万円
第2子以降の出産に対し、お祝い金を支給。
- スコリア土壌森林内緊急整備事業 239万8千円
森林のスコリア土壌流出を軽減するため、土壌の改良や木柵の設置等。

- 森林施業集約化促進緊急整備事業 339万5千円
土砂流出被害の軽減を図るため、森林施業集約化計画を策定して、森林整備。
- 山地強弱総合対策会議 200万円
強い森林づくりを目指し、住民、森林管理者、県東部農林事務所等の関係者と協議・検討。
- 災害対策本部映像装置整備事業 108万5千円
気象観測情報や被害情報等を大画面に表示し、災害対策本部の的確な意思決定するためのシステム整備。
- 「北郷の森」森林環境整備計画策定事業 100万円
災害に強い森林づくり、保健休養林としての活用等の計画策定。
- 空き家解体撤去事業補助金 30万円
危険な状態にある空き家等の解体及び撤去に要した工事費。
- LED照明導入調査事業 800万円
自治会が設置している防犯灯をLED化するための調査等。
- 消防第3分団車庫詰所建設事業 48万5千3百6千円
消防第3分団車庫詰所の建て替え。

③ いきいきとしたまち

【教育・文化・産業】

- 自主文化事業 1000万円
自主文化事業公演の委託。
- 生涯学習人材育成事業 1100万円
生涯学習に関わる人材の育成。
- 生涯学習施設改修事業 4億1215万1千円
生涯学習施設の改修工事。
- 小・中学校整備事業 2051万円
小学校トイレ改修工事等。
- 小中学校図書室支援員配置 425万5千円
図書室の充実を図るため、4人の支援員を配置。
- 小学校低学年の書道科授業 78万円
小学1年生・2年生の書道科授業。
- 小山町地域産業立地事業費補助金 1000万円
地域産業立地事業を行う者に対し、補助金を交付。
- 富士山麓特用林産物開発事業 100万円
富士山麓で行う特用林産物の開発、生産試験。

- 須走口五合目ビジターセンター等概略設計 50万円
富士山ビジターセンター1サテライト施設の検討。
- 須走口五合目公衆トイレ改修事業 650万円
- 総合相談窓口の設置 138万円
日常生活上の悩み、町政に対する苦情、疑問、要望等の相談窓口の一元化。
- NPO支援センター業務 300万円
市民活動団体に対する情報提供、団体育成、組織の支援、趣味教室等の実施。
- 自治基本条例策定事業 300万円
自治基本条例の策定に向けた調査・検討。
- ファシリテーション研修 50万9千円
区長及び役員若手職員を対象とし、協働のまちづくり推進に必要なファシリテーションの技術を学ぶ合同研修。



▲豪雨により崩れた山林

静岡県企業局と協定締結

内陸フロンティアを拓く取組を企業誘致の面から推進するためのモデル事業として、町は小山湯船原工業団地の開発へ向けた協定を静岡県と締結しました。

昨年3月に内閣府に指定された静岡県の「ふじのくに防災減災・地域成長モデル総合特区（内陸のフロンティアを拓く取組）」について、静岡県企業局と町は3月25日に「小山湯船原工業団地」の開発に関する協定を締結しました。

開発にあたり、県企業局は造成、町は地元調整や企業誘致などについて積極的な役割を担います。

計画では、県企業局は平成27年から約30haに13区画程度の用地を造成し平成30年度から進出企業に引き渡します。町は開発地域周辺で町道を

整備するなど工業団地の利便性向上に取り組み、企業誘致について県と連携し用地の売り込みを行います。

小山湯船原工業団地周辺には、新東名小山PAやスマートインターチェンジの設置が予定されるなどにより誘致の可能性が高いため、用地をあらかじめ用意するレディメイド方式が採用されました。



▲川勝知事へ協定締結を報告する込山町長

小山町材の愛称決定！

町では4月14日、小山町材の愛称を「富士山—金時材」とする記念式典を行いました。また、同日には静岡東原木流通センター（上野）などの竣工式なども行われ、小山町の木材流通に大きな一歩を踏み出しました。

愛称の選定にあたり、町内「金時材」に決定しました。に集荷したスギ等の原木を町内などの工場で加工した木材製品の流通促進を図り、広く地域住民に愛され、小山町材の魅力が全国に発信できるよう愛称が選定されました。愛称は、応募総数35点の中から4点を選出し、川勝知事に愛称の選定を依頼し、この4点の意図を汲んで「富士山—

上野にできた静岡東原木流通センターは、静岡県東部における原木の集荷・選別・配送の拠点を担います。原木流通センターは1日に3,500本の選別が可能であり、入荷された原木はコンピューターにより効率的に集中管理され、協定先に安定的に供給が可能となります。



▲金太郎と共に愛称決定の記念式典



▲センターは森と工場を結ぶストックヤード

ふじのくに内陸フロンティア知事褒賞受賞

静岡県では、防災・減災と地域成長の両立を目指す「内陸のフロンティア」を拓く取組のモデルとなる公共性の高い事業に対し、ふじのくに内陸フロンティアプロジェクト知事褒賞として表彰しています。

このたび、町が推薦しました町と連携・協力した木質バイオマスを活用する2団体の事業が知事褒賞を受賞しました。



▶左から県東部地域政策局 滝澤局長、富士小山次世代施設園芸推進コンソーシアム 会長 梶吉氏、静東森林経営協同組合 理事長 小寺氏、込山町長

静東原木流通センター整備事業

事業主体 静東森林経営協同組合
受賞内容

県内初となる3D選別機を導入した原木流通センターを整備。小山町の総合特区事業「富士山麓における地域産業の振興とバイオマス活用拠点の形成」に掲げる持続可能な資源循環型林業の中心的役割を持つ施設として、製材所や木質バイオマス発電所への原木供給拠点となる。

木質バイオマスを活用した次世代施設園芸導入加速化支援事業

事業主体 富士小山次世代施設園芸推進コンソーシアム
受賞内容

生産者・民間企業・実需者・研究機関・地方公共団体で構成するコンソーシアムが主体となり、木質バイオマス（ペレット）を活用した大規模施設園芸団地を整備。農水省が全国9カ所で実施する次世代施設園芸導入加速化支援事業に選定され、小山町の総合特区事業「富士山麓における地域産業の振興とバイオマス活用拠点の形成」に合致した事業である。

ごみ処理総合施設の愛称募集

御殿場市・小山町広域行政組合では板妻・神場地先に「ごみ処理総合施設（ごみ焼却施設・ごみ再資源化施設）」の建設を進めています。ごみ処理総合施設のうち、ごみ焼却施設は来年4月から稼働予定ですが、組合では多くの市・町民の皆さんに施設に親しみを持っていただくため、施設の愛称を募集します。たくさんのご応募をお待ちしています。

応募資格
御殿場市・小山町に在住・通勤・通学している人
募集期間
平成26年7月21日～8月21日（必着）

応募方法

ハガキなどに、愛称、その理由（100字以内）、住所、氏名、年齢、連絡先を記入し、郵送またはEメールでご応募ください。

個人情報については、御殿場市・小山町広域行政組合個人情報保護条例に基づき適切に管理し、本募集事業以外には使用しません。

注意事項

- ①ごみ処理総合施設（ごみ焼却施設・ごみ再資源化施設）の愛称と多目的広場の総称）の愛称とします。
 - ②応募作品は自作で未発表のものとし、第三者の権利を侵害しないものに限りません。
 - ③応募作品は返却しません。
 - ④作品の採用にあたっては、添削をする場合があります。
 - ⑤採用した作品の知的財産権等の一切の権利は組合に帰属するものとします。
 - ⑥応募作品は一人2点まで。
- 愛称の決定等
発表は10月末を予定し、当選者はオープニングセレモニーで表彰。記念品（愛称採用者…2万円相当、入賞者若干名…5千円相当）を贈呈。



▶4月から稼働予定のごみ焼却施設

応募先 〒412-8601 御殿場市萩原483
御殿場市・小山町広域行政組合施設課
電話 82-4634
E-mail shisetsu@gotemba-oyama-kouiki.jp



▲新東名小山P A周辺地区の説明を受ける川勝知事と込山町長ら

静岡県知事が総合特区用地を視察

川勝知事が9月5日、内陸のフロンティアを拓く取組のモデル事業である「小山湯船原工業団地」の用地などを視察しました。

昨年2月に内閣府に指定された静岡県の「ふじのくに防災減災・地域成長モデル総合特区（内陸のフロンティアを拓く取組）」において、静岡県企業局と町は今年3月に「小山湯船原工業団地」の開発に関する協定を締結しました。

県は、「内陸のフロンティア」を拓く取組を企業誘致の面から推進するためのモデル事業として、企業局が小山町湯船原地区において先行用地造成（レディーメイド方式）を行うこととなり、平成27年から約30haに13区画程度の用地を造成し平成30年度からの分譲を開始します。

一方、町は地元調整、用地買収、企業誘致などについて積極的な役割を担っていきます。

今回は川勝知事とともに県企業局の篠原局長らも同行し、この工業団地用地や周辺に計画されている農林水産省の指定を受けた次世

代施設園芸導入加速化支援事業用地、静岡原木流通センター、新東名（仮称）小山P AスマートIC用地などを視察しました。

今後、町は開発地域周辺で町道を整備するなど工業団地やP A周辺の利便性向上に取り組み、県と連携して、内陸のフロンティアを拓く取組を推進します。



▶計画について現場で詳細な説明を実施

新産業集積を目指し基本協定

湯船原地区新産業集積エリアの造成事業基本協定

町と大和ハウス工業は10月22日、静岡県の内陸フロンティア推進区域に指定されている湯船原地区の新産業集積エリアの造成に関する基本協定を締結しました。

同協定により、町は土地の買収や開発の許認可手続きを行い、同社が工業団地の造成を行い、2018年度に分譲を開始する予定です。

新産業集積エリアは約35ヘクタールで、町が2016年度までに測量・設計・用地買収などを行った後、同社に造成を一括委託し、企業誘致が進められます。



▲協定を締結した込山町長と浦川常務執行役員(右)



▲平和記念公園への訪問など貴重な体験を発表する中学生たち

平和の尊さを次の世代へ

小山町戦没者慰霊祭・平和のつどい

小山町戦没者慰霊祭と平和のつどいを10月24日、総合文化会館で行いました。

戦没者慰霊祭では遺族や来賓など約200人が参列し、英霊690柱に哀悼の意を表し、平和のつどいでは町内中学生や遺族など約500人が参加しました。

平和のつどいではステージ上に約5メートルの折り鶴が設置され、平和教育生徒派遣事業で広島市を訪れた町内中学生6人が発表を行い、多くの町民や町内団体によって折られた千羽鶴の献呈も行われました。

元気いっぱいのパレード

幼児防火・交通安全パレード

幼児防火・交通安全パレードを10月29日、健康福祉会館から役場本庁舎まで行いました。

消防音楽隊を先頭に、町内の保育園・幼稚園・こども園児たち約150人のほか、消防団・消防署・防火安全協会・交通指導員、消防ポンプ車やパトカーなどが続き、住民に火災予防と交通安全を呼びかけました。

出発前に園児たちが防火安全宣言や交通安全宣言を行い、拍子木などを鳴らしながら元気にパレードを行いました。



▲防火を呼びかける幼年消防クラブの園児たち

湯船原地区

〔再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業推進区域〕

- ・工業団地、物流団地、次世代施設園芸団地などの整備による雇用創出と地域経済の活性化
- ・木質バイオマスや太陽光など地域資源を活用した発電施設整備による再生エネルギーの創出
- ・災害に備え、企業との災害時協力協定締結、避難所などへの非常電源供給



▲トマトの栽培が始まったハウス内で施設の説明を受ける川勝知事（左）や込山町長などの来賓

平成26年度から上野地先で整備を進めてきた「次世代施設園芸団地」が完成し、6月10日に竣工式典が行われました。約7haの敷地に高糖度トマト「アメーラ」のハウス20棟が立ち並び、最先端の情報通信技術や木質バイオマス暖房設備が導入されるなど、まさに次世代の施設が誕生しました。

式典には、加藤寛治農林水産大臣政務官、川勝平太郎知事、込山町長をはじめ、多くの関係者が出席し、式典後の内覧では、施設整備を行った富士小山次世代施設園

県内最大規模の
トマト栽培施設が竣工

静岡県企業局が湯船原に整備する小山湯船原工業団地の造成工事安全祈願祭が6月1日に行われ、川勝平太郎知事や込山町長など約70人が出席し、工事の安全を願いました。

小山湯船原工業団地の
造成工事開始

芸推進コンソーシアムの稲吉正博会長（株）サンファーム富士小山代表取締役が施設を案内しました。



▲上野に整備された次世代施設園芸団地

工業団地の広さは31・4haで、平成30年度の完成を目指す7区画が整備されます。

町では、県と連携し、首都圏からのアクセス優位性や豊かな自然環境などをアピールし、雇用の創出につながる企業誘致を進めて公表し、分譲価格を公表し、進出希望企業からの申込受付を開始しています。



▲整備イメージは「富士山を背景にした森にたざむ工業団地」



▲安全祈願祭で鎮入れる込山町長

内陸フロンティアに関する問い合わせ 未来拠点課 ☎76-6129

防災・減災と地域成長を両立させた地域づくり

「内陸のフロンティア」を拓く取組

新たな地域づくりを進め、安全・安心な小山町へ

静岡県では、南海トラフ巨大地震への備えや、さらに先を見据えた事前復興の考え方に基づき、防災・減災と地域成長を両立させた、美しい品格ある地域づくりを進める「内陸のフロンティア」を拓く取組により、県土の強靱化に努めています。

町では、平成27年度までに6つの地区において、県の「内陸フロンティア推進区域」の指定を受け、今年5月には、新たに須走周辺地区の指定を受けました。

推進区域での事業の具体化により、雇用の創出や観光交流人口・定住人口の拡大を図ると共に、企業との災害時協力協定締結による緊急物資供給・避難場所確保などを進めます。産業振興や地域活性化の取り組みを大規模災害への備えにもつなげ、町民が安全・安心に暮らせる、魅力ある小山町を目指していきます。

「内陸フロンティア推進区域」の最近の動き

町内の推進区域では、事業の具体化に向けた取り組みが進められています。湯船原地区では、工業団地や太陽光発電施設の造成工事のほか、次世代施設園芸団地の完成など大規模プロジェクトが目に見える形になってきました。駿河小山駅周辺地区では、駅北側に新たな飲料製造工場が完成・操業するなど、小山町の「内陸フロンティア」は大きく動いています。

足柄SA周辺地区

〔東名高速道路足柄サービスエリア周辺を広域都市交流拠点とした土地利用事業推進区域〕

- ・(仮称)足柄スマートインターチェンジの整備や、隣接地に観光複合施設などを立地
- ・災害に備え、立地企業との災害時協力協定締結を行い、広域防災拠点として活用

スマートインターチェンジが
正式に設置許可

6月6日に、国土交通大臣から東名高速道路（足柄サービスエリア）と小山町道との連結が許可されました。これにより（仮称）足柄スマートインターチェンジの設置が認められ、国土交通省から町道との連結許可書の伝達が6月14日に行われました。

町では、平成31年3月スマートインターチェンジの開通を目指し、アクセス道路の整備を進めます。また、隣接する約30haの区域には、民間事業者による観光複合施設の事業計画が進められています。



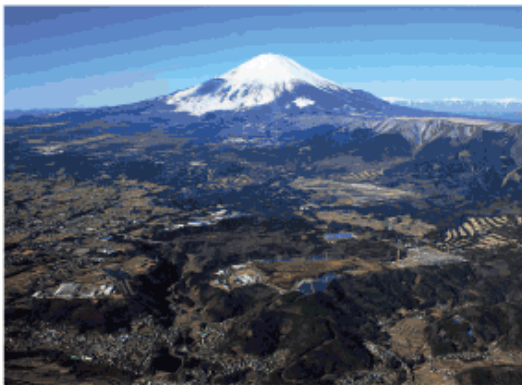
▲国からの連結許可書を受け取る込山町長（中央）



▶足柄サービスエリア周辺地に計画している観光複合施設の構想。平成31年3月の完成を目指す。



▶スマートインターチェンジの完成イメージ（足柄SA下り側）



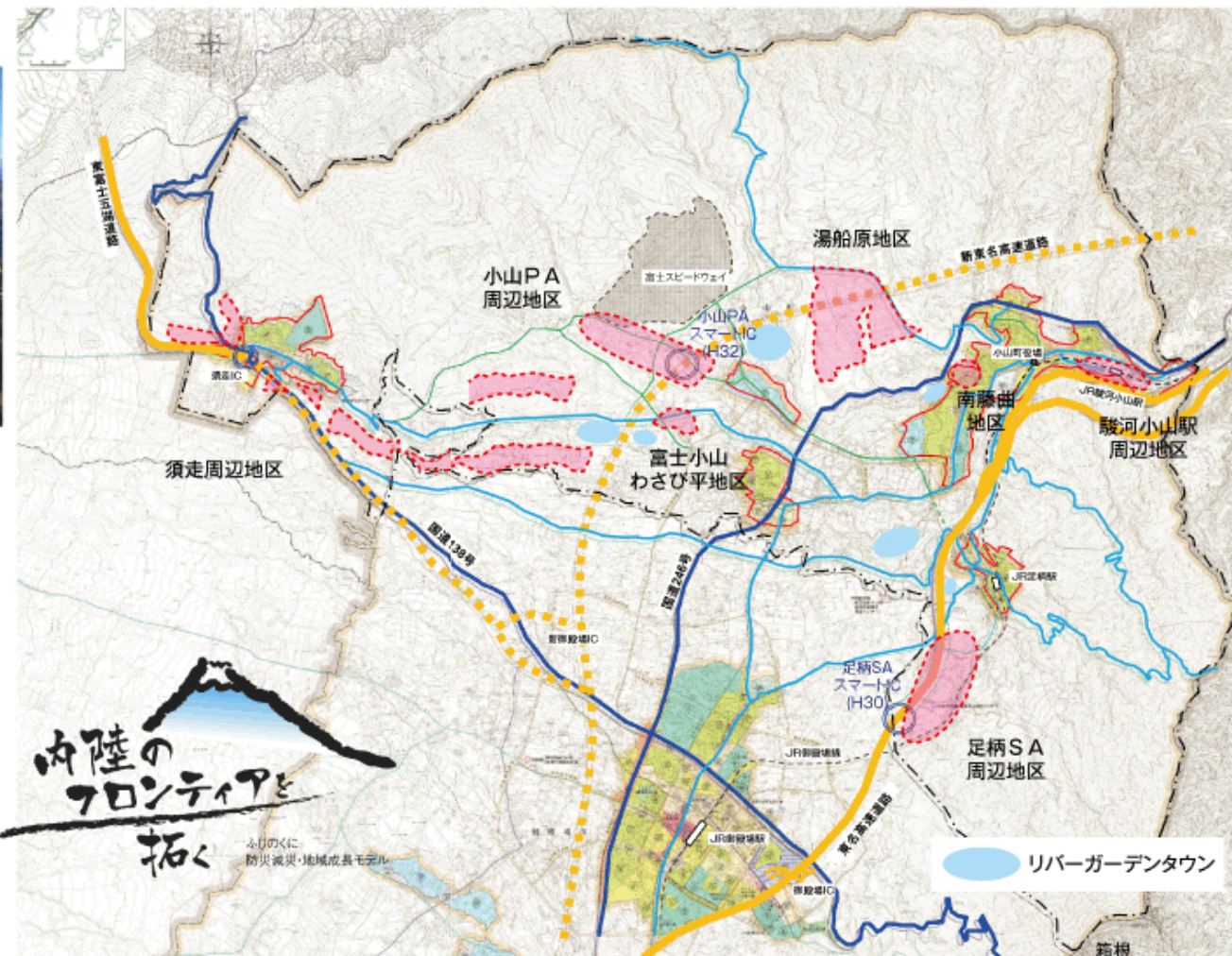
▲大きく変貌を遂げる湯船原地区（平成29年2月撮影）

おやまで動く

町では、県と連携して、首都圏からのアクセスの優位性や豊かな自然環境をアピールしながら、雇用の創出につながる工業団地の整備と企業誘致を進めています。

JR駿河小山駅近くに「信濃高原食品」の工場立地

JR駿河小山駅に隣接する工業用地には、富士紡績工場跡地に丸善食品工業グループの「信濃高原食品株式会社小山工場」が、平成28年4月に竣工しました。主に、ペットボトル飲料の製造が行われています。



造成が進む「富士山麓フロンティアパーク小山」

湯船原地区では、静岡県企業局が「富士山を借景にした森に佇む工業団地」をコンセプトに、31・4haの「富士山麓フロンティアパーク小山」の造成工事を行っています。平成30年秋に分譲開始予定です。

工事に着手「新産業集積エリア工業団地」

「富士山麓フロンティアパーク小山」に隣接する「新産業集積エリア」は、町が主体となり約37haの工業団地造成に今年着手します。新東名高速道路（仮称）小山PA

おやまで暮らそう

工業団地などの整備により、働く人が近くに住める住宅用地の確保が進んでいます。

この他に、物流企業を集積する「ロジスティックターミナルエリア」では、国道246号から湯船原地区へ乗り入れ可能なアクセス道路を整備し、物流団地を造成しています。

★リバーガーデンタウンおやま宅地造成事業推進区域【町内6か所】

平成32年度は、町内に新東名高速道路が開通し、また東京オリンピックが開催される大きな節目の年です。町では、平成32年度を一つの目標に、これらの推進区域での事業の具体化により、産業振興や雇用の創出、定住人口の拡大を図ります。そして、進出企業との防災協定締結などを大規模災害への備えにつなげ、町民が安全・安心、いきいきと暮らせる小山町を目指していきます。

今年号では、推進区域の事業と、その取り組みによる町を目指す姿を紹介します。

静岡県では、巨大地震に備え、事前復興の視点を取り入れた「内陸のフロンティア」を拓く取組により、地域産業の活性化や自然と調和した新しいライフスタイルの実現などを目指しています。

県は、取り組みの県内全域への拡大に向け、市町の取り組みや事業の具体化を強化する「内陸フロンティア推進区域」制度を平成26年に創設し、これまでに県内78区域を指定しました。小山町は、現在8つの「推進区域」の指定を受け、それぞれの区域で事業を展開しています。

★小山町の内陸フロンティア推進区域

★（仮称）小山パーキングエリア・スマートインターを活用した地域産業集積事業推進区域（小山PA周辺）

★再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業推進区域（湯船原）

★東名高速道路足柄SAサービスエリア周辺を広域都市交流拠点とした土地利用事業推進区域（足柄SA周辺）

★生活と自然が調和した「富士小山わさび平地区」推進区域【富士小山わさび平】

★南藤曲地区「家・庭」体の住まいづくり推進区域【南藤曲】

★富士山の眺望を活かした駿河小山駅周辺活性化事業推進区域【駿河小山駅周辺】

★富士山に抱かれた須走周辺地区観光活性化事業推進区域【須走周辺】

「内陸のフロンティア」を拓く取組の実現に向けて

おやまの挑戦。

Interview **こだわりのブランドトマトを全国に**



圃サンファーム富士小山
専務取締役
黒崎 久哉さん

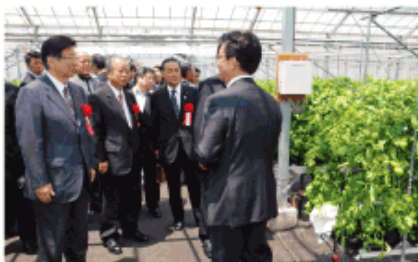
圃サンファーム富士小山は、約7haの敷地に20棟のハウスを整備して高糖度トマトを栽培しています。現在1日の出荷量は約800kgで、最盛期には2tものトマトを出荷します。この施設の特徴は、大規模であること、木質バイオマス燃料と重油を併用したハイブリッド暖房の活用と、ICT技術によりハウス内の気温、湿度などの環境を調整することで、効率よく高品質なトマトを栽培できることです。小山町は、都心からも100km圏内にあり新東名が通過することで、今まで以上に「ヒト」「モノ」の交流が期待されます。小山町で栽培しているこだわりのおいしいトマトを全国に広げていきたいですね。

町における「内陸のフロンティア」を拓く取組に関する事業は、平成25年2月に「新東名高速道路（仮称）小山パーキングエリア周

おやまのこれから

〜人が集まり、住み、交流するまち〜

将来的には、同エリア内に建設予定の「木質バイオマス発電所」から出る熱の利用も計画しています。敷地に高糖度トマト「アメーラ」の施設園芸団地を整備しました。平成28年6月に竣工式と内覧会を開催し、栽培・出荷が始まっています。



▲こだわりのトマトの施設園芸団地の内覧式

今後「内陸フロンティア推進区

このような中、町は災害のさまざまな状況に対応するために、学校など公共施設の耐震化や災害対策本部機能強化と二元化、平成28年には「小山町国土強靱化地域計画」策定など、防災・減災対策に取り組んできました。

これまで述べてきた8つの「内陸フロンティア推進区域」での事業を具現化していくことにより、小山町に、働く場所が増え、それにより人が集まり、人が住み、交流が進みます。

さらに、5つの推進区域が加わり、現在では8つの区域で事業を進めています。

平成26年には「足柄サービスエリア周辺地区」を加えた3地区が県の「内陸フロンティア推進区域」の指定を受け「三来拠点事業」として取り組みがスタートしました。また、湯船原地区の農用地造成区域「アグリングストリーエリア」では、山林を農地に造成し、約32haの一大施設園芸団地を創出するため「県営畑地帯総合整備事業」に平成29年度から取り組みます。平成30年度に造成工事に着手し、平成31年度からの一部利用開始を目指します。

Interview **おやまの進展に期待**



小山町企画総務部
技監 宮林 辰雄さん
H26年度より国交省から派遣

内陸フロンティア推進事業の骨格を成す足柄SAへのスマートICの設置、国道246号から湯船原工業団地までのアクセス道路の設置など、この3年間でほぼ自給をつけることができました。今後は整備した社会資本をフルに活用することで、さらなる内陸フロンティア事業の推進、ひいては小山町の発展に大きく弾みがつくものと確信しています。人口2万人圏の「小さな町」の“大きな挑戦”に携われたことを感謝すると共に、今後の進展を見つめていきたい。

「域」でのさまざまな事業が推進されていくことにより、小山町の産業振興や地域の活性化と共に、小山町に新たに生まれた企業・事業所などで、災害時の協力協定を結ぶことで、緊急時の供給や避難場所の確保が可能になります。

おやまで農業

湯船原地区の農用地造成区域「アグリングストリーエリア」

同エリアでは既に、圃サンファーム富士小山「富士小山次世代施設園芸事業」により、約7haの



▲緑豊かで家・庭一体が特徴のクルドサク16

保が必要になります。町では、南藤曲地区に16区画の住宅団地「クルドサク16」を整備、平成27年5月に分譲を開始し、既に15区画を分譲しました。「クルドサク」は、フランス語で「袋小路」を意味します。車の通り抜けはできませんが、通行するのは主に居住者であり、防犯性・安全性が高いことが特徴です。クルドサク16は、県の「豊かな暮らし空間創生住宅地」に指定された町の分譲地です。コミュニティ道路や広場などの共用スペースを設け「自然と触れ合い」「家族との暮らし」「地域とのつながり」などを大切にしたい生活スタイルを目指しています。

Interview **おやまに定住を決めました**



クルドサク16に住んでいる
関根 真寛さん家族

小山町は土地が広く、水がきれいです。休日にゆっくり過ごしたくて御殿場市から引っ越しました。クルドサク16は子育て世帯も多く、共有スペースで子どもたちを遊ばせることができます。家庭菜園の年間計画を立てました。収穫が楽しみです。この住宅団地はコンセプトに合っていて、満足しています。

また、新東名高速道路（仮称）小山PAのスマートインターチェンジ設置による利便性や自然環境を生かした住宅用地を確保するため、用沢地区に2haの「富士小山わさび平地区」優良田圃住宅事業を計画しています。平成29年度には富士山が望める住宅団地32区画の実設計に着手します。その他にも計画中の「リバーガーデンタウンおやま宅地造成事業」では、新たな雇用者となる若者世帯向けに、水と緑があふれる職住近接の住宅地を整備して、地域コミュニティの活性化を図ります。

おやまで遊ぶ・癒やされる

足柄サービスエリア周辺は、富士山を望める豊かな自然環境や（仮称）足柄スマートインターチェンジの開通（平成30年度予定）、高速バス乗り場も近いなど、交通の利便性を生かした交流の場として、観光関連施設を誘致します。

平成27年10月、開発事業者の株式会社アイグニスと投資会社のファーストブラザーズ㈱と町が開発基本協定を締結し、平成29年度には造成工事に着手します。

この事業は、足柄サービスエリア周辺の桑木地区内約30haの用地に温泉施設、宿泊施設、レストランなどの観光複合施設を計画するものです。株式会社アイグニスは三重県でも観光複合施設を運営しています。

また、あしがら温泉近くでは、株相栄が平成30年度の開業に向けて今年から工事に着手、外国人観光客のニーズに対応した国際観光ホテルが誕生します。さらに、富士山観光の拠点である須走地区では、道の駅すばしり周辺と国道138号沿道などに、宿泊施設を誘致し「富士のあるまち」をアピールしていきます。

おやまの新エネルギー



▲株式会社アイグニス、ファーストブラザーズ㈱との開発協定

「富士山麓フロンティアパーク小山」をはさんだ約27haの土地では、災害に強く持続可能な再生可能エネルギーである太陽光発電施設の整備を行っています。

平成28年10月から、太陽光発電事業者である大和リース㈱が造成工事を進めていて、約66,000枚の太陽光パネルの設置はほぼ完了し、平成29年内の発電開始を予定しています。発電規模は、1.6MWで約4,000世帯の電力量に相当します。

また、湯船原地区には平成30年の発電開始を目指し「木質バイオマス発電所」を建設します。

わたしたちは、子どもたちに住みよい小山町をバトンタッチしていかなければなりません。不法なゴミ投棄や産業廃棄物により、恵まれた環境が損なわれる前に、身近な自然保護から、もう一度環境を考え直してみませんか。



昭和42年頃から広大な湯船原に産業廃棄物やゴミが捨てられはじめた。年間30,000㎡、面積にして約2haにも及ぶ。

原船湯化する廃産

秩序ある開発のため「投棄基準」などを強化

地域の環境美化から自然保護を

一方、恵まれた環境を身近な自然保護から守っていくという声も広まっています。小山中学校（渡辺喜一校長、生徒数59人）では、毎年河川清掃を実施しています。今年も野沢川周辺、国道二四六号線中島インター付近の清掃を行いました。——自然保護には、まず自分たちの地域を知り、地域の美化から広げることが必要だと思えます。——と話しています。

地域の環境保全は、日常生活の一部です。一人ひとりが汚さないという「気づき」が必要で、

しかし、駅のホームや道路に平気でゴミを捨てる人がいます。環境自治推進協議会副会長の林友重さん（茅沼）は「山にでかけると、ダンブがゴミを捨てているのをよく見かけます。一度捨てるのとみんながそこに捨てちゃうんです。もうゴミの山と化しちゃって。——と話してくれました。このように環境保全のモラルに欠ける人もいます。



野沢川の清掃をする小山中生徒

北郷中グラウンドと同じ位の広さに産業廃棄物やゴミが……

ひとは、生活の向上と安定、定住志向などで、ゆとりと潤いのある快適な生活環境を求めています。

しかし、いま町の恵まれた産業廃棄物の埋立て、土砂石の採取により、こわされそうになっています。というのは、昭和四十二年頃から、湯船原に深さ二十以上の大きな穴があちこちで掘られ、そこに産業廃棄物の処理業者が、廃棄物を処分するようになりました。また、山林には不法投棄によるゴミの山が目立つようになったのです。

産業廃棄物については、一日約百立方、一か月に二十五日捨てるとして、年間で三万立方も処分されていることになりました。また面積にして約二、北郷中学校のグラウンドとほぼ同じぐらいの広い土地に産業廃棄物が捨てられていることになりました。そのうえ、二十以上の穴を地面から直角に掘り下げて、廃棄物をつめただけつめ込んで、処分しています。

町には、有効な土地利用を図り、環境の保全と、地域の発展を目的とした土地利用対策委員会があります。委員会では、産業廃棄物の埋立てや、土砂石の採取についての基準を強化して、その対応にあっています。

また、「広報おやま」では、この現状をみなさんにも知っていただくこと、環境自治推進協議会の方三人に現場を視察してもらいました。会長の米山三郎さん（下原）は「話は聞いてたけど、こんなにあちこちで処分してたとは思わなかった。もっともつと、たくさんの人に見てもらいたい。現状を知ってほしいですね。——と話してくれました。

また副会長の湯山行雄さん（宿）は「私はなんとも思って、環境汚染が怖い怖いとも思いました。有害物質はないとも思っても、廃棄物を捨てていると思うと……。やはり、自分たちの子どもにもよい環境で生活してもらいたいですよ。——と話してくれました。町でも、今後県と協力して、巡回パトロールの実施をするなどして、環境を守っていく方針です。

土砂石の採取・産業廃棄物の埋立て処理基準の変更

- ◎1,000㎡以上の工場、2,000㎡以上の観光施設や住宅団地の建設
 - ◎地下水の採水
 - ◎産業廃棄物の埋立て処理
 - ◎500㎡以上か、土量1,000㎡以上の土砂石の採取
- 以上の事業をするときは、土地利用対策委員会へ申請し、承認を受けなければなりません。これらの事業をするとき、または用地を使用させるときは、◎その事業が委員会へ届出しなくてもよいかどうか、◎必要とするとき、事業者が正規な申請をしようとしているか、など確認してください。詳しくは、役場内土地利用対策委員会事務局（☎6-1111内線316・317）まで、おたずねください。

産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃えがら・汚い・廃油・廃酸・廃アルカリ・プラスチック・紙くず・木くず・ゴムくず・産業廃棄物（新清掃法より）

頑固ものの環境が つむじを曲げるまえに

ひとの健康は、環境と切り放しで考えることはできません。環境汚染による動植物の成長障害や、死滅などの影響は、直接的にまた、食物連鎖などにより、間接的に、ひとの健康を侵害し、疾病を多発させるおそれを持っています。

自然環境の汚染は、じわじわとしかし、着実にその歩を進めていきます。そして、十年、二十年後にあらわれてきます。産業廃棄物や、ゴミの投棄による地下水汚染も心配になります。

環境は頑固なもの、いったんつむじを曲げると、なかなか回復してくれません。

いま、わたしたちが住んでいる小山町、子どもたちがこれから生活していく小山町、いつまでも住みよい町にしておかなければなりません。六月五日から十一日までは、環境週間です。この機会に、わたしたち一人ひとりが、日常生活に密着した身近な自然保護から、もう一度環境を考え直しましょう。子どもたちは、大きな自然の中で育まれます。

守っていききたいこの自然環境

蝕ばまれる湯船・上野原台地

産廃基準の強化やパトロールで監視

産業廃棄物やゴミの埋立て処理、不法投棄などによつて湯船原や上野原の自然環境が、今損なわれようとして

います。町ではこうしたことから産業廃棄物の埋立てや、土砂石の採取についての基準を強化するとともに、監視体制を強化、また土地所有者へのレター作戦を実施しました。

この湯船原、上野原は全体で四百十台という広大な台地で、緑におおわれた、豊かな自然環境を持っています。

この地域は現在、市街化調整区域となっており、一部東京電力新富士変電所や第一園芸が立地しているだけですが、近い将来、開発が注目される、大変重要な地域となっています。

しかし昭和四十二年頃から、スコリア（火山砂れき）が採取され、さらにそれに、深さ十センチから二十センチの大きな穴が掘られ、産業廃棄物が埋立てられてきました。このまま産業廃棄物の投棄が野放しで続けられて行くと、将来この地域の開発は不可能なばかりでなく、地盤の低下にもつながります。またこの台地の下には、私たちが



開始

有量

水銀による環境汚染が問題となっている、使用済「乾電池」

電池、ホタン型の水銀電池、酸化銀電池などがあります。この中で特に問題となっているのがアルカリ乾電池で、同じ大きさ

社大会

土屋さくら二十人
日野本と長杉

よって法人化となった社会福祉協議会の充実強化など五項目の大会宣言を採択しました。

可が下りしだい、取りかかります。

町政功労で原正高ら三人を表彰

八月一日は七十二回目の町制記念日です。町ではこの日を記念して、七月三十一日、役場大会議室で、町の発展や社会福祉に功績のあった三人の人の表彰と、五十七団体、十九個人の篤志寄付者への感謝状贈呈を行いました。

町政功労者として表彰されたのは、民生児童委員として町の社会福祉の向上に寄与された原正高（一色）、学校医として三十七年間齒科検診とむし歯予防に努めた、故小野重男（音淵）、五十九年間林業と山林種苗の生産に従事、林業種苗の品種改良と育苗技術の向上に努めた葛城秀雄（宿）です。

すでに十七日に
廃棄物が埋立て

町ではこのため、産業廃棄物の埋立てや、土砂石の採取についての基準を強化、今月から他市町村の事業所で発生した産業廃棄物の処理と、隣接する土地所有者及び地域住民の同意がないものについては処理できなくなりました。

一方、パトロールなどによる監視体制の強化をはかるとともに、三百三十人の土地所有者に対し、手紙で理解と協力を求める、レター作戦を先月行ないました。

県でもこうした実態を重視、先月二十三、二十四日の二日間におたり、県環境衛生課や環境衛生監視機動隊による現地調査が行なわれ埋立地の総面積、箇所数、廃棄物の種類などを調査しました。

すでに埋立ての完了しているものが百七件、埋立中八件、設置中四件の計百十九ヶ所で行なわれ、その面積は実に十七・七割、甲子園球場のざつと二・七倍の面積に及んでいます。そして埋立て後の土地利用をみると、その六十割が、荒地や覆土（土を覆っただけのもの）のままになっています。

秋の交通安全運動
九月二十一日～三十日

九月二十一日から、三十日まで秋の全国交通安全運動が行なわれます。

町でも、シートベルトの着用を重点目標に、ステッカーやパンフレットの配布などで、安全意識を深めています。

そして、シートベルトを着けないことが、逆にカッコ悪いといえるところまで、このシートベルト着用運動を盛り上げていく方針です。

「持ち込ませない」「捨てさせない」「埋めさせない」 美しい自然を廃棄物から守る町を宣言

町では、恵まれた自然が、ここ数年の産業廃棄物の埋立てや、土砂石の採取などにより、損なわれようとしていることから、八月一日から、他市町村の事業所で発生した産業廃棄物の処理はできないこととし、また町内で発生したもののについても、隣接する土地所有者や地域住民の同意がないものについては、処理できないなどの基準の強化を行なっています。

また、パトロールなどによる監視体制の強化をはじめ、土地所有者一人ひとりに手紙を出して、協力をお願いしてきました。

いっぽう、こうした状況の中で、環境衛生自治推進協議会や区長会では、問題を重視し、緊急役員会を開き、各諸団体への呼びかけを行なうなどして、先月半ばに、前

●わたしたちの町は、産業廃棄物を「持ち込ませない」、「捨てさせない」、「埋めさせない」を合言葉とします。

●わたしたちの町の産業廃棄物は、美しい自然と調和した処分をします。

●わたしたち町民は、すべての廃棄物に強い監視をします。

●わたしたち町民は、すべての廃棄物から守る町づくりを実現することを宣言します。

敬老祝い金の贈呈、模範老人の表彰、米寿を迎えた方への記念品の贈呈、演芸会（素人による寸劇など）など行なわれます。

なお、敬老の日を迎える七十歳以上の老人は、男六百三十九人、女九百八十一人、合計千六百二十人です。（数字は、八月一日現在）

いつまでもお達者で
敬老会は九月十八日に

長寿を祝う敬老会が、今年、九月十八日、午前十時半より町立体育館で行なわれます。

面倒・窮屈・カッコ悪い シートベルト わかっているも…



シートベルトを締めていたために、助かったというケースはたくさんあります。御殿場警察署管内でも、スピードの出すぎで右カーブを曲がり切れず、七十歳の崖下に転落、シートベルトを着けていたために、二週間のけがですんだという例も報告されています。

昨年一年間の交通事故死者数は、九千五百二十人、四輪乗用車死者は、三千四百五十一人、シートベルト未着用の死者は、三千三百七十九人でした。内訳は、フロントガラス、ハンドルなどで頭、胸部を強打した死者が五割強と最も多く、車外に放り出された死者が一割となっています。四輪乗用車の六割にあたる約二千人が、シートベルトを着用していれば助かったといわれています。

この生死を分ける命綱シートベルトの効果は、わかっているも、面倒、窮屈、カッコ悪いといっています。街頭指導による県平均の着用率は、二十六割、町内では三十割でした。しかし、同乗者を含んだ着用率となると、約十台に一台の割合で、ぐっと減少します。

シートベルトを締めていたために、助かったというケースはたくさんあります。御殿場警察署管内でも、スピードの出すぎで右カーブを曲がり切れず、七十歳の崖下に転落、シートベルトを着けていたために、二週間のけがですんだという例も報告されています。

昨年一年間の交通事故死者数は、九千五百二十人、四輪乗用車死者は、三千四百五十一人、シートベルト未着用の死者は、三千三百七十九人でした。内訳は、フロントガラス、ハンドルなどで頭、胸部を強打した死者が五割強と最も多く、車外に放り出された死者が一割となっています。



図13-24 北郷青年団による廃品回収活動(昭和60年)

にも着手、翌五三年には小学校PTAや青年団など地域ぐるみの運動に発展した。

ゴミ減量化のため、昭和五六年からは分別収集(燃える・燃えない・埋め立て・資源ゴミの四種類)が導入された。しかし、埋め立てゴミは増加傾向が依然著しく処理場確保は深刻である。ゴミ焼却もダイオキシン発生という新たな難問を突きつけはじめた。これらは全国各地の自治体共通の深刻な課題といえる。

また、家庭や事業所からのゴミの処理に加えて、町外からの産業廃棄物投棄は町の頭痛の種になっている。昭和四〇年代にはすでに「バ



図13-25 湯船原に投棄された産業廃棄物やゴミの山(昭和59年)

収集が開始された。農村地域の市街化進展に対応した処置で、これにより小山町全域でのごみ収集体制が整った(不燃物は昭和四四年から全町域)。

一方では、昭和四八年の第一次石油危機の影響により資源再利用の動きも見え始めた。住民側も町の消費者実践グループが中心になって空ビンの回収運動などに取り組んだ。昭和五二年にはアルミ缶の回収

イパス沿いへ大量のゴミ 運送業者の仕業」『岳麓新聞』昭和48年5月26日)など新聞記事の見出しにもなっている。大量投棄・埋め立ては水源の水質維持や保水能力などの面からも大問題であった。とくに大量投棄が問題になったのは湯船・上野台地であった。昭和四二年頃から湯船・上野原台地では深さ一〇〜二〇メートルの大きな穴がスコリア(火山砂れき)の採取により掘られ、そこに大量の産業廃棄物が埋め立てられてきた。埋め立て後の過半は荒地のままか土を被せたままの覆土となった(『広報おやま』311号)。また不法投棄は、道端での行きずりの投棄から山林の奥に分け入っての計画的な大量投棄・埋め立てまで多様で、町の行政対応を越える問題になりつつある。

第六節 富士のまち、小山

小山町の現在

神奈川・山梨両県に接する県境のまち、私たちの小山はその北西端が富士山頂に達する雄大なロケーションを有し、東西に長い町域の面積は一三六平方キロメートル、うち田が五・八平方キロメートル、畑が三・〇平方キロメートル、宅地が五・七平方キロメートル、山林が二七・二平方キロメートル、原野が六・三平方キロメートルなどとなっている(『小山町の統計』平成九年度版)。近年はとくに平坦地の開発が進み、田と宅地の面積がほぼ拮抗している。

今まで見てきたように、この小山の地で暮らす私たちの暮らしは先人達とは大きく様変わりをした。町民自体も人口構成や年齢構成そして就業形態など従来と比べてその変化は大きい。こうした点に注目し